**呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)**

呉市海事歴史科学館は2005年に開館した。明治時代（1868～1912）の近代化の象徴であり、呉市の発展の礎となった軍艦建造や製鉄業の発展を中心に、呉の歴史と発展を紹介している。

第二次世界大戦で有名な戦艦「大和」を10分の1スケールで詳細に再現していることから「大和ミュージアム」と呼ばれている。1階の大和ひろばでは、全長26.3メートルの複製品が展示されている。呉市海事歴史科学館は、大和が建造された旧海軍工廠の近くにある。1941年に竣工したこの戦艦は、戦艦史上最大の46センチ砲を9門搭載した戦艦としては最も重く、最も強力な武装を備えた戦艦であった。1945年、大和は九州島の南方で3,332人の乗組員とともに沈没した。1982年に難破船が発見され、1985年にはこの難破船が「大和」であることが正式に確認された。戦艦大和の模型は、博物館のシンボルとして、産業技術の可能性と平和の大切さを伝えるために制作された。模型の背後にある海に面した大きな窓からは、かつて海軍工廠があった呉港が一望でき、現在では世界最大級のタンカー船を生産する日本有数の造船所となっている。

1階の「呉の歴史」では、小さな漁村から1889年に呉海軍所、1903年に海軍工廠が開設され、その後、海軍港町としての呉の発展、戦時中の呉空襲、戦後の復興など、呉の歴史を紹介している。また、呉海軍工廠で製作された他の艦船の詳細な縮尺模型や戦艦「大和」の設計図なども多数展示している。

小型の模型が多いのに対し、1階の大物展示では、A6M零戦の実物や人間魚雷「回天」の十式の試作機、小形潜水艦（蛟龍）、大和の主砲台用に製造されたものをはじめとする各種武装解除砲弾など、退役した戦時技術の貴重なコレクションが展示されている。

3階には​体験型造船技術ゾーンがあり、船の設計の背景にある科学を学んだり、模型船が波にどのように作用するかを実験水槽で遊んだりすることができる。また、その向かいには未来展望コーナーがあり、大和シアターでは20分ごとに技術の発展の可能性を紹介するショートビデオが上映されている。